

【日時】 令和5年8月1日（火） 13時30分～

【場所】 新居浜市消防防災合同庁舎（5階）

【項目】

- （1）私たちのまちづくり 新居浜みらい会議「高校生政策アイデアコンテスト」
- （2）ものづくりのまち新居浜で開催！
第7回全国選抜高校生溶接技術競技会in新居浜「溶接甲子園」
- （3）あかがねミュージアム150万人来場見込（8/7の週）
- （4）赤石山系登山道へ設置したレスキューポイント標識が山岳救助活動に活用された事例

（司会）

定刻が参りましたので月例記者会見をはじめさせていただきます。なお、担当部局が出席しておりますので、詳細等について確認事項がございましたら、会見終了後、そちらでお受けします。

それでは、市長よろしくお願ひいたします。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">（1）私たちのまちづくり 新居浜みらい会議「高校生政策アイデアコンテスト」（2）ものづくりのまち新居浜で開催！
第7回全国選抜高校生溶接技術競技会in新居浜「溶接甲子園」（3）あかがねミュージアム150万人来場見込（8/7の週）（4）赤石山系登山道へ設置したレスキューポイント標識が山岳救助活動に活用された事例 |
|--|

（市長）

本日は月例記者会見にご出席をいただきまして、ありがとうございます。

まず初めに、西条保健所管内では、新型コロナウイルス感染症の患者報告数が7月に入って急増をしております。

夏休みに入り、旅行や、お盆など、様々な交流イベントを予定されていることと思いますが、感染拡大を防ぐため、改めて定期的な換気、こまめな手洗い、場面に応じたマスクの着用など、基本的な感染予防対策の徹底をお願いいたします。特に高齢者等の重症化リスクが高い方は、十分ご注意くださいようお願いいたします。

それでは、お手元の会見次第の各項目について、ご説明させていただきます。

まず、「私たちのまちづくり 新居浜みらい会議『高校生政策アイデアコンテスト』」についてでございます。

新居浜市では、平成29年度から、市の政策に市民の提案を反映させる取り組みとして、「新居浜みらい会議」を開催しております。

当会議において、市内の中・高校生から出されたアイデアをもとに実施したものには、黒島海浜公園の「清掃と交流イベント」や高校生がガイド役を務める「あかがねの道スタディーツアー」等がございます。

今年度は、6月13日付けの報道資料においてお知らせしてをいたしておりますとおり、

市内の高校生を対象とした「高校生政策アイデアコンテスト」を実施いたしております、本市から3つの課題、一つは「SDGsの推進」二つ目が「国際化意識の啓発について」3つ目が「若者（高校生）によるきれいなまち新居浜の実現」を設定しておりましたところ、10チーム35名から応募がございました。

今後、8月上旬に一次審査等を行い、8月30日(水)には最終審査として、ワクリエ新居浜において高校生のプレゼンテーションを予定いたしております。

最終審査は、アイデアや実現可能性などを評価いたしますが、私も審査員として参加を予定しております、どのような提案をいただけるか、大変楽しみにしているところでございます。最終審査につきましては、詳細が決まりましたら、報道資料でお知らせいたします。このコンテストを通して、高校生がまちづくりに興味を持つとともに、高校生から提案いただくアイデアが、本市の活性化につながることを期待いたしております。

次に、「ものづくりのまち新居浜で開催！第7回全国選抜高校生溶接技術競技会in新居浜『溶接甲子園』」についてでございます。

高校生の溶接技術を競う四国地区高校生溶接技術競技会及び全国選抜高校生溶接技術競技会in新居浜の開催について、7月19日付けの報道資料においてお知らせをいたしておりましたが、7月26日(水)に四国地区の競技会が行われ、全国選抜高校生溶接技術競技会in新居浜、いわゆる「溶接甲子園」に出場する四国地区の代表選手が決まりましたので、改めて、お知らせさせていただくものでございます。

「溶接甲子園」は、高校生の溶接技術の向上を図るとともに、新居浜がものづくりのまち、溶接のまちであることを全国に発信することを目的として、平成29年度から実施いたしております。新型コロナウイルスの影響により令和2年度の第4回大会は中止いたしました。これまで全国の工業系の高等学校80校が参加するという、非常に規模の大きな溶接競技の全国大会として認知されております。

本年も、8月5日(土)の9時から17時まで、一般社団法人 日本溶接協会 四国地区溶接技術検定委員会において開催し、「被覆(ひふく)アーク溶接部門」と「炭酸ガスアーク溶接部門」の2部門に、19都道府県30校37名が参加し、全国から新居浜に集った高校生による熱い戦いが期待されるところでございます。なお、本市からは、新居浜工業高等学校の生徒が2名参加する予定となっております。本競技会の実施により、将来の新居浜のものづくりを支える溶接技術者の育成、また、全国に「ものづくりのまち新居浜」を発信することができるものと期待をしているところでございます。

次に、「あかがねミュージアム150万人来場見込」についてでございます。

あかがねミュージアムは「創る・学ぶ・育む」をコンセプトに、本市の文化芸術活動の拠点として、平成27年7月18日に開館以来、市内外より多くの皆様にお越しをいただき、開館4年目の令和元年12月7日には入館者100万人を突破いたしました。

その後、コロナ禍もございましたが、多くの市民の皆様が文化を身近に感じ、創作、鑑賞などを行えるよう、様々な展覧会やイベントなどを開催してございまして、現在は7月8日(土)より開催してございます「tupera tuperaのかおてん。」に子育て世代の皆様を中心に、連日たくさんの方にお越しいただいております。

そのような中、8月の第2週には入館者数が150万人を突破する見込みとなりましたことから、まずお知らせさせていただきまして、150万人突破の際にはセレモニーを開催する予定といたしておりますので、その際には改めてお知らせさせていただきます。

次に、「赤石山系登山道へ設置したレスキューポイント標識が山岳救助活動に活用された事例」についてでございます。

6月の定例記者会見において赤石山系登山道へのレスキューポイント標識設置と四国中央警察署及び四国中央市消防本部との合同訓練についてお伝えしたところでございますが、

先般、赤石山系の登山道において下山中、道に迷ったという登山者からの通報時に、レスキューポイント標識の情報提供があったことから、早期に登山者の位置の特定ができ、迅速に捜索活動が実施できた事案がございました。当事者からも、標識番号を消防に伝えるだけで現在地が簡単に伝わり、非常に安心感があったと伺っております。

今回の捜索活動では、先に実施した合同訓練においてレスキューポイント標識の設置位置を共有するなど連携を強化していたことから、円滑な捜索活動へ繋げることができました。今回の事例を標識設置の奏功事例の一つとしてお知らせいたしますとともに、今後におきましても、標識を活用することで重大事故発生を未然に防ぐことが期待されるので、広くご周知いただきますようお願い申し上げます。

私からは以上でございます。